

令和元年度 稲沢市地域自立支援協議会 第4回地域生活支援部会 議事要旨

【日 時】 令和2年2月27日（木）午後2時～午後3時30分

【場 所】 稲沢市社会福祉会館 1階 集会室

【出席者】 地域生活支援部会委員9人、事務局2人

【欠席者】 地域生活支援部会委員2人

【議 事】

1 協議事項

(1) 医療的ケア児支援ネットワークについて

【1月の作業部会についての主な報告】

- 実際にサービスを利用するにあたり、保護者の方が、家庭で自分がやるケアに比べて手厚さで違いがあり心配に思うことで、踏み切れないケースもあるため話し合いが必要だと言う意見が出た。市外だと大同病院まで行かれる方が多いとのことだった。
- 今回新たに市民病院で訪問看護ステーションを立ち上げられ、看護師長さんが参加された。市民病院も小児科医師の確保が難しくレスパイト入院の対応は難しいが、災害時の対応について1件相談があって、今後も相談があれば対応は検討していきたいと前向きな話があった。
- 今後について、コーディネーターが4人になったが、皆仕事をしながらの肩書なので専門業務でなく機能していない。どう情報集約していくか、医療機関や住民に周知が出来るかも課題。連携して存在を知ってもらうことが必要と言う話があった。
- 作業部会は、話し合ったり、深く追求しても良い場なので、市に何が必要で、何が足りなくて、家族が何に困っていて、ということを話し合っていける場にしたい。次回は、ご家族に話していただいて課題を発掘していく。
- 今の会議の中で当事者の方が参加されているので、まずお話をしていただき、それを基に考えて行こうと思う。またコーディネーターについても考えていく。在宅の重症心身障害児向けのサポートブックも国のものがあるということで、今後検討できると良いとの意見もあり、そうしたことで次年度活動して行く。次回は6月4日1時30分から。

【主な意見、感想】

- 当事者の方から、色々な病院で医療を受けているが、医療の情報を一つにまとめられるものがあると良いとの話があり、レスパイトの事も含めて子どもを預ける時に良いと思う。作業部会で話し合われた内容が、いかに該当する保護者に伝えられるかも課題と言う意見も出ていたと思う。
- コーディネーターの会議報告の中で、保健所から医ケア児の災害時の対応についての調査について話もあったので、県としての動きもあるかなと思った。当事者からの話を聞く中で、サポートブックのようなものがあると毎回説明する負担が無くて良いと思った。
- ご家族の話も印象的だったが、先天性と後天性の方のご家族の気持ちの違いについて意

見があったことが印象的だった。訪問看護ステーションの方からの意見だった。

- 医ケアに伴う技術も簡単なものから最新まで色々あり、ニーズに答えるのは難しい。レスパイトについて家族の思いと実際の違いがあるところも理解できる。医療従事者が必要と思う範囲と、家族が必要と思う感覚の違い、手を抜いているわけではないが、回数だけでなく、親の子どもに対する思いと医療従事者から見たその子への思いの違いは学校教育の場でもどう取り入れていくのかも難しいと思う。

## (2) 地域生活支援拠点等の整備について

### 【協議の進捗状況についての主な報告】

- 拠点整備のイメージ図を運営会議で出し、各連絡会に伝えて行くことになった。各連絡会に、事務局と部会長と共に出席して、面的整備で行うこと、それに伴い他事業所が連携して機能を組み合わせ、地域全体で支援する協力体制づくりを説明した。役割について理解してもらい、主に緊急時の対応について意見を出してもらった。イメージ図のとおり、緊急時の相談支援事業所での課題や、その後一次拠点と二次的拠点では居住系事業所連絡会で課題を出し、日中活動については、就労支援事業所連絡会や、通所支援事業所連絡会、自宅への支援についてはヘルパーの意見交換会で意見を出してもらった。
- 一時的拠点に、日中通所先の事業所の方が出向いてスポット的に支援する形についても連絡会で話をしている。出来る事は協力したいという雰囲気は感じられたが、限られたスタッフを緊急時にとられると本来の業務に支障が出る、報酬がないと頼みづらい、受け入れてもいつまで続くのか期限がないと頑張れないと言う意見がある。どの会議でも移送の問題が課題で、送迎や付添いの対応を誰がするかということ。来月 3 日の日中活動連絡会での意見も入れて今後は課題を整理し、解決策を検討して提案出来たら良い。

### 【主な意見、感想】

- 皆さん真剣に、緊急時の仕組みや事業所で出来ることについて意見を出してもらい、大きなシートになった。全事業所で支える面的整備を皆で考えて行けている。連絡会を回っていたので作業部会は行えていないが、緊急対応が出来たら次は体験について検討し、秋までに市に提言していきたい。
- 一覧で見ると色々な角度から問題が把握でき、どうしていくか大変だと思って見ている。移送が一番難しいと思う。相談の段階で如何に道筋を作っておくかが大事だと思う。できるだけ相談支援の方は、普段から大変だが何かあった時の想定をしておく必要がある。普段は危機感を持たない方も多いと思うが、できるだけネットを張っていくのが大事。
- 緊急時になるとその日から食事の事やお金の事などがネックになる。そこがきちんとできれば良い。後は自宅で一人で過ごせるかどうか。急に一人になった方でも一人で居られる方もいる。自由に暮してきたのでヘルパーが訪問しても出て来ない方や、一人だと何もできない、どこにも行けない方、時間で動くことができない方などは難しさがある。
- 市で考えているのは、まず拠点の機能を動かしていくのに市で要綱を作成する。機能を

果たすと取れる加算があり、事業所は運営規程に記載して県に届け出をし、市にも登録してもらう。それをリスト化する。次に報酬についてはどこまで出せるか分からないが、別の要綱を作る。ショートを利用したら後付けでも福祉サービス費として出せるが、GHで預かったらサービス費が出ないので、市から出す。そのための要綱。10月頃にはどの程度の経費が必要か、金額的には少ないと思うが根拠が必要になる。一通り意見が出たら課題に対する方策を市の中でも話し合いたい。

○今後のスケジュールも教えて頂いて進めていきたい。

### (3) こども部会(仮)設置について

#### 【12月の作業部会についての主な報告】

○12月の作業部会では、小学校、特別支援学校から新たに参加してもらい、一宮市で何を検討しているか知るため一宮市自立支援協議会からも参加してもらった。一宮市の子ども部会は、毎月20人で放課後デイサービス、サポートブック、不登校という3つの課題を協議している。平成22年度に発達支援部会を設置して発達障害のことを考えてきたが、発達障害というより子どもを軸に考えるということで、平成31年度より子ども部会とした。放課後等デイが多く、質のばらつきがあるので事業所連絡会を行っているが、参加されない事業所もある。不登校も大きな問題だが、具体的なことはまだされていない。

○こだわりの強い子、自分ルールが譲れない子、グレーの子が多く年少期から療育を受ける事が大切だとの意見があった。

○発達障害の子が不登校に繋がる事が多いと言う意見もあり一宮市では相談窓口の一本化と言うことで青少年育成課と連携出来ないかとの意見も出ている。

○特別支援学校は、どんどん児童、生徒数が増えていて、生活面や学習面を見をないといけないが待たせてしまう子も多い。一宮市の方もサポートブックもあまり記入していない方が多く、今後スマホのアプリで利用する意見も出ている。

○今後の参加者については、その都度課題に応じて頼んで行くのが良い、医療機関を巻き込むと良い、リハビリの先生なら連絡が取りやすいとの話があった。

#### 【主な意見、感想】

○こども部会で何を検討すべきか、稲沢市として何をしていくか。通級の先生から、この議論の場について知らなかったと言う意見があり、議論できる場から必要ではと感じた。現場で苦労している方があり、そこから繋がっていない現状があると思った。

○現場の通級に携っている方に参加していただいたことで、現場は現場で大変だが、行政として動いている部分を知ることができる機会がないので、来て良かったと仰っていた。これからも参加していただけるとのことだった。

○報告の中で、リハビリの先生に繋がると良いとの話があったが、今、発達支援室と、リハビリの先生との間で、情報提供の関係を作っている。病院全体というより担当者の方が動いており、部会に参加して市全体について考えてもらうには少し早いと感じた。

- 早期療育が出来て行ける流れが作れると良いと思う。
- 相談支援だと、こども関係ではデイサービスの状況がわかりづらい感じがする。相談支援の連絡会でも課題があがっているかもしれない。
- 個別支援会議を開催して協議会にあげていくので、基になるのは相談支援だと思う。
- 母がヘルパー利用で、子どもがいる家庭があるが、世帯として難しいと感じる。子どもにも課題がある事があり、居宅介護サービスを提供している中で、お子さんの発達など、気になることは相談員に報告している。
- 令和3年度の部会の設置に向けて、今後はメンバー選出と課題を洗い出していく。
- 来年度は障害児福祉計画を作る年になるので市として意見を聞いたりするかもしれない。

#### (4) その他

- ・サポートブックアンケート結果について報告（事務局）

##### 【主な意見、感想】

- アプリの活用について機能が多いと費用もかかる。今市が子育て支援のホームページでアプリも使っているが、HPもある為だと思うが月額9万円かかっている。作成にも費用がかかるし、内容によっても違ってくると思う。
- 今のものにサポートブックを追加することはできないか。
- 最初に組み込みをしないといけない。機能の追加に審査もあり、個人情報に関わるものになると公開ができなくなる。それなりにシステムを構築しないと難しい。
- アプリだと手軽に母が記入しやすいと思うし、活用もしやすいと思う。
- 人に見せないといけない点はどうか。
- それはスマホからプリントアウトして持って行く事が出来ると思うので可能と思う。ただアプリ自体にお金がかかると思う。
- 今のサポートブックはHPにデータがあるが記入できるか。
- エクセルになっていけばスマホでも入力できる、今の若い方はスマホで入力する。打ち込みができればアプリでなくても良い。持ち歩かなくても必要な分だけ打ち出すことができる。スマホが活用できれば便利になる。
- 現状は在庫がないので、最低限の修正をして補充する。余っているところから回収をして使う。
- 今後、サポートブックに関して協議の場は、子ども部会の作業部会で行っていく。